

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員

水山 洋輔

実施月日	令和7年2月12日(水)		
実施時間	9時30分～11時30分		
調査先	岐阜市役所		
調査所在	岐阜県岐阜市司町40番地1		
調査の目的	自動運転バスの取り組みについて		
調査先担当者	岐阜市都市建設部長 太田喜文氏／交通政策課長川田真樹氏／交通政策課主幹兼交通推進係長 宇野真由美氏／交通政策課交通施策推進係石黒巧真氏／岐阜市議会事務局議事調査課議事記録係 太田恵氏		
内容・結果等	(内容) 岐阜市の自動運転バスの取り組みについて。令和元年に自動運転活用で国の事業に選定され、令和2年度から令和4年度までは自動運転実証実験を段階的に実施。令和5年度より市街地における5年間の継続運行を実施中。現在、ルートの一部においてレベル4での運航を目指しバスと信号機の協調システムの整備・検証中。 社会受容性の向上の取り組みとして、以前運行していた路面電車のイメージをデザインに反映。 (まとめ) 岐阜市では、JR岐阜駅から(市役所)岐阜公園を岐阜市センターゾーンとして駅前の再開発、市内中心部の開発、市役所と図書館など市民が利用しやすい施設整備、岐阜城(織田信長)を活かした公園整備を進められており、自動運手バスの取り組みも岐阜市のまちづくりの一つとして取り組まれていると感じた。自動運転バスは、収益化が課題であり、運賃収入だけでは採算が合わないが、現在は、先進地として視察や観光による宿泊等の経済効果を費用対効果として捉えられていた。名古屋市との利便性もよいため、定住者や観光客も増えることが見込まれており、今後の展開も注視したい。		
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	電車賃		12,340
	旅費・宿泊費	わたしの旅	65,900
	合 計		78,240

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること